

始めてみませんか、社内フードドライブ

～食べ物「もったいない」を「ありがとう」に SDGsアクションの推進～



フードドライブとは？

「フードドライブ※」は、家庭で使いきれない食品を持ち寄り、フードバンク等に寄付することで、食べ物を必要とする方々に届ける助け合いの活動であり、SDGsの達成につながるアクションのひとつです。

コロナ禍の影響により、「食の支援」を求めている方が数多くいらっしゃる中で、フードドライブ活動に、一人でも多くの方々が参加することで、SDGsが目指す誰一人取り残さない社会の実現につながっていきます。

フードドライブは、企業単位でも社内の一部署でも行うことができます。従業員のSDGsに対する意識の向上や、地域社会貢献活動として企業価値の向上も期待できるなど、多くのメリットがあります。皆様も社内でフードドライブをやってみませんか？

※「ドライブ」には、寄付活動、キャンペーンといった意味があります。



なぜフードドライブが必要なの？

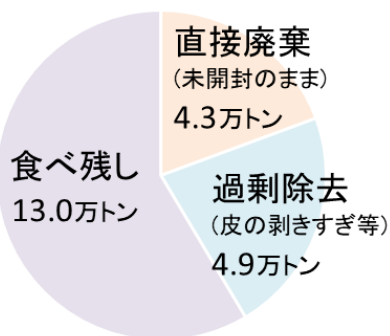
日本の食料自給率は、令和2年度実績で37%（カロリーベース）であり、食料の多くを輸入に頼っています。

一方で、国内では、年間 2,531 万トンの食品が廃棄され、その中にはまだ食べられるにも関わらず捨てられる食品、いわゆる「食品ロス」が 600 万トンも含まれており、国民一人あたり、お茶碗約1杯分（約130g）の食べものが毎日捨てられていることになります。

食品ロスは、事業者だけでなく、家庭でも多く発生しており、各事業者と国民一人ひとりが、食べ物を無駄にしないための取組みを行うことが求められています。

また、世界には、飢えや栄養不足で苦しんでいる人々が約8億人いると推計されています。日本でも、厚生労働省の調査(2018年)では、国民の15%が貧困状態にあるという結果が出ており、経済的な格差の拡大に加え、地域コミュニティや家族関係の変容により、子どもや高齢者の貧困化・孤立化が進んでいます。

県内の家庭から出た
食品ロスの内訳
(平成30年度実績)



県内では、年間49.9万トンの食品ロスが発生し、そのうち22.2万トンが家庭で発生したものです。

フードドライブはSDGsの具体的な取組みです

1 貧困をなくそう	ひとり親家庭などへの支援による子どもの貧困の解消
2 栄養食の提供	フードバンクから子ども食堂を通じた栄養バランスのとれた食事の提供
3 すべての人に健康と福祉を	栄養状態の改善、コミュニケーションによる健康的な生活習慣の実現
8 働きがいも経済成長も	食料資源の効率的な利用、社会課題解決に取り組む社員の働きがい
11 住み続けられるまちづくりを	社会面におけるつながり、包括的かつ持続可能な暮らしやすい街づくり
12 つくる責任 つかう責任	天然資源の効率的な利用、ごみの発生量の削減
13 気候変動に具体的な対策を	余剰食品の焼却廃棄によるCO2排出の防止
17 パートナリシップで目標を達成しよう	持続可能な社会に向けたパートナーシップ活動

集めた食品はどんな風に役立てられるの？

フードドライブで集まった食品は、地域の「子ども食堂」などに届けられます。

子ども食堂とは、無料または低額で食事を提供する食堂で、子どもが安心して過ごせる居場所として、コロナ禍でますますその役割がクローズアップされています。

子ども食堂で出される食事の多くは、フードドライブなどを通じて、事業所や家庭の皆さまから提供された食材が活用されています。

県内の子ども食堂の活動を知りたい方は、県HPをご参照ください。

【かながわスマイルテーブル（県HP）】
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/sy8/cnt/f536929/p1229083.html>



社内フードドライブの実施手順

①実施場所、期間、食品の寄付先等を企画する

実施時期に決まりはありません。社内イベントに合わせて実施したり、「食品ロス削減月間(10月)」「寄付月間(12月)」等に合わせて数日から数週間程度スポット的に実施してみてもいいでしょうか。

食品の寄贈先は、食品寄付の仲介を行う地域の「フードバンク」から探すと良いでしょう。そのほか、地元の子ども食堂など福祉団体に直接寄付することもできます。

【県内のフードバンクの例】

【県全域】(公社)フードバンクかながわ、【横浜市】(NPO)フードバンク横浜、食支援ネットかながわ、お福わけの会、くろーばーマーケット、(NPO)フードバンク浜っ子南、青葉フードシェアネットワーク、(NPO)セカンドリーグ神奈川(ビーバーリンク@武蔵新城ほか)、【川崎市】フードバンクかわさき((一社)ファースト・ステップ)、【相模原市】フードコミュニティ、(NPO)サテラ、【横須賀市】(NPO)神奈川フードバンク・プラス、【平塚市】(NPO)フードバンクひらつか、【鎌倉市】(一社)ふらっとカフェ鎌倉、【藤沢市】フードバンクふじさわ、【小田原市】(NPO)報徳食品支援センター、たすけあい、【茅ヶ崎市】地域のお茶の間研究所さろんど、【大和市】(NPO)さくらの森・親子サポートネット、【座間市】(NPO)ワンエイド

連絡先等は、県HPを参照ください

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/bs5/sdgs-fooddrive.html>



②食品の寄付先との事前調整

寄付先のフードバンク等に連絡し、寄付できる食品(賞味期限の残りなど)の条件や、食品の引き渡し方法、不足している食品などを確認します。

なお、寄付できる食品は、常温保存できる未開封の食品で、賞味期限が1~2ヶ月以上残っているものとするところが多く、引き渡し方法は寄付先まで届けるのが一般的です。(寄付先により受入条件等は異なります)

③社内周知

Web社内報や、チラシ、ポスター等でフードドライブ実施の周知をします。その際に、受付可能な食品などの注意事項や回収した食品の活用方法を合わせて周知します。

④フードドライブの実施

【用意するもの】食品回収ボックス、受付机、案内掲示板(のぼり旗)、計量器 等

※寄付者の名前を記録する場合は、受付用紙、筆記用具等も用意します。

※回収ボックス、のぼり旗等の貸し出しを行っているフードバンクもあります。

⑤集まった食品を集計する

集まった食品の数量、重量などを集計し、必要に応じて写真撮影しておきます。集計結果は、内部報告や外部公表などに活用します。

⑥集まった食品をフードバンクへ届ける

【参考】神奈川県庁で実施した職員向けフードドライブの概要

【実施期間】

令和3年8月24日(火)～令和3年9月3日(金)

【回収ボックスの設置場所】

神奈川県庁本庁舎内の4カ所

【集まった食品の量】

合計 1,094 点
416 kg



実際に集まった食品(一部)

【食品の寄付先】

公益社団法人フードバンクかながわ

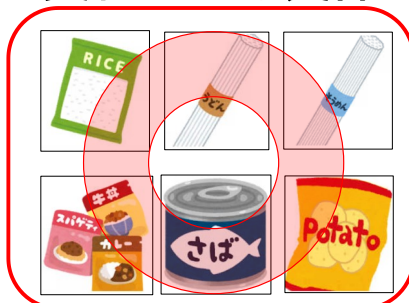
【職員への周知方法】

職員向けWeb掲示板への掲載
職員向けに知事メッセージをWeb配信
幹部連絡会での周知
案内看板、のぼり旗の設置 等



庁舎ロビーに回収ボックスを設置

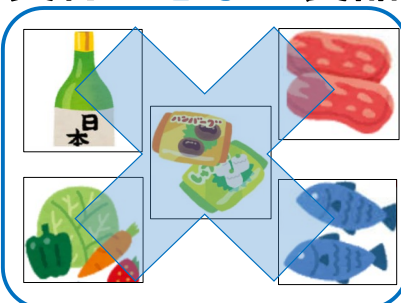
受付できる食品



- ◆穀類(お米、麺類、小麦粉等)
- ◆保存食品(缶詰、瓶詰等)・飲料
- ◆インスタント食品・レトルト食品
- ◆ギフトバック(お中元、お歳暮)
- ◆お菓子 ◆調味料

2か月以上賞味期限が残っている
常温保存可能なもの

受付できない食品



- ◆アルコール類(お酒・みりんなど)
- ◆魚・肉・生野菜などの生鮮食品
- ◆冷凍・冷蔵食品
- ◆賞味期限の記載がないもの
- ◆賞味期限が2か月未満のもの
- ◆外装が破れているもの

ごめんなさい……

上記食品は、受付できません。



案内看板

受け付けできる食品・受付できない食品の周知資料

※内容は寄付先の「フードバンクかながわ」と事前に調整

【問合せ先】

神奈川県 政策局いのち・未来戦略本部室
環境農政局環境部資源循環推進課
福祉子どもみらい局次世代育成課
電話：045-210-1111 (代表)

神奈川県のフード
ドライブのホーム
ページはこちら

